

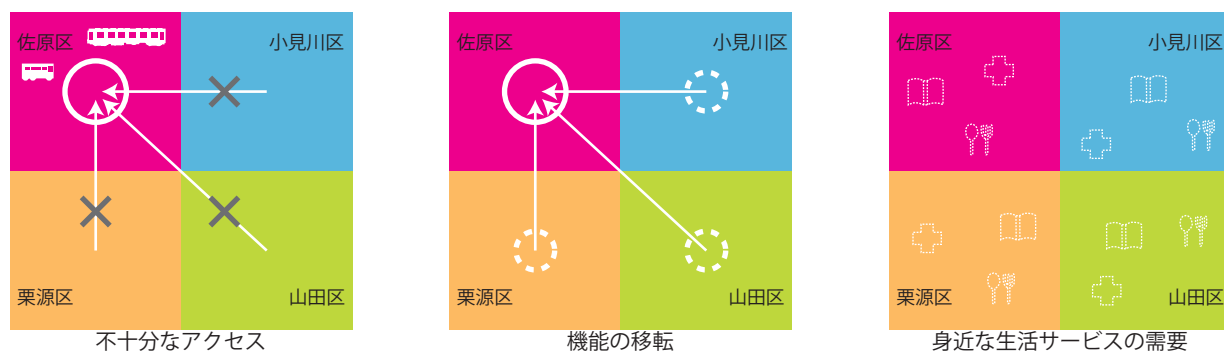
balloon が香取で目指すもの

合併した市でのこれからの暮らしを支える生活インフラを作る

高齢化・過疎化が進む地域では、地域外への移動が困難となり、買い物をはじめ日常生活に大きな支障が出てくる。香取市の山倉地区もそういった地域である。

香取市は4市町村(佐原市、小見川町、山田町、栗源町)が合併してできた市だが、それら4地区のつながりはまだ弱く、市として今後の市民の生活を支える仕組みをまだ見出せてはいない。逆に、佐原地区に機能が集約されたことで、他地区での暮らしは不便になった部分もある。

市全体で、“たなカー・ぷらっと”というシステムがネットワークを構築することで、これからの暮らしを支える生活インフラを作りたい。それは生活サービスを提供するだけでなく、人・モノ・情報が“たなカー”を介して動くことで、4地域をつなげることも期待できる。



“なかよし”の取り組みをより魅力的・持続的なものにする

買い物に行くことのできない高齢者に“買い物の場”を与えること。それと同時に地域の人同士が“集まる場”を作り、地域内での交流が少なくなっていく中で、“交流の場”を提供すること。

山倉地区の住民4人が運営する“なかよし”が目指していることである。そして、それは“たなカー・ぷらっと”が目指していることである。

地域にとって大きな意味を持つ“なかよし”の活動を、より魅力的・持続的なものにする必要がある。

経済的、肉体的、時間的負担を軽減すること。他主体との連携により、協力体制を築いていくこと。それをデザインすることで、“なかよし”は地域を支え続けることができる。



香取市全体へ、活動の連鎖を起こす

“なかよし”の活動を市全体に広げていく。“なかよし”のように地域を支える主体が現れ、連携し合い、ネットワークを構築する。活動を連鎖させる。

そのために必要なことは、“なかよし”の取り組みの持つ意味を伝えること。それが、決して難しいこと、大変なことではなく、誰にでも、自分たちにもできることだと気付いてもらうこと。地域に住む自分たちがやるべきことだと感じてもらうこと。

そのための“たなカー・ぷらっと”のカタチをデザインしていく。

